

# 報告

## 日本の医療を守る道民協議会第8回総会

—中川日医常任理事講演—

### 「わが国の医療の現状と日本医師会の取組み」

常任理事・総務部長 深澤 雅則

7月11日（土）午後4時15分から、北海道医師会館9階で開催した協議会総会は、理事である小職が司会・進行を務め、冒頭、長瀬協議会会長が挨拶。議事では、日本の医療を守る道民協議会35団体のうち、一部団体役員の変更に伴う役員の変更などを説明して、了承された。

引き続き、8階に場所を移して開催した講演会で、中川日本医師会常任理事（当会参与）は、「医療崩壊の主因は、社会保障費の自然増である毎年2,200億円の国庫支出の削減政策にある」と強調した。

また、唐澤執行部になり、飛躍的に増えた定例記者会見やイメージアップ戦略を目指す日医の広報活動が着実に成果を上げている状況など説明した後、フロアと質疑応答した。

参加者は111名であった。



講演会で、長瀬会長は、「まもなく衆議院議員選挙があるが、これからの政治状況は不明瞭。国民が望むような方向に力を合わせて運動したい」と述べ、日本医師会の広報担当で、中医協などにおいて活躍している中川常任理事を紹介した。

中川常任理事は、日本の対GDP総医療費はOECD30カ国中21位と極めて低い。小泉・竹中路線の下、2002年から始まった社会保障費の削減策と「骨太の方針2006」で打ち出された、2011年度には国・地方の基礎的財政収支を黒字化する方針により、毎年機械的に2,200億円削減すると、あるべき国庫支出の自然増に比較し、2006年までの5年間で3.3兆円、10年間で実に12.1兆円の削減になる。日医が2,200億円削減自体の撤回を求めることにこだわるのは、予算編成のたびに2,200億円の財源探しから始めねばならず、この手当てで余力がなくなり、診療報酬引き上げ財源の確保が困難なことであると説明された。

日医が示した「グランドデザイン2009」において、公的医療保険を支える財源のひとつとして、消費税の検討を挙げているが、消費税の大幅な引き上げが



中川日本医師会常任理事



会場の様子

#### 次 第

(司 会) 深澤協議会理事

1. 開 会
2. 挨 拶
3. 議 事  
(1) 役員の変更について  
(2) その他
4. 講 演 (16:30)

座 長 長瀬会長

「わが国の医療の現状と日本医師会の取組み」

講 師 中川俊男日本医師会常任理事

・北海道医師会参与

5. 質疑応答
6. 閉 会

達成されにくい現状では、「社会保障目的化」を維持し、いざとなれば一般会計で対応できるようにしておく方がよいと述べ、医療費抑制の結果、救急医療の受入困難、診療所の経営赤字、若年層の受診抑制が起きていると懸念を示された。

また、日医は、国民皆保険を守るための緊急提言として、「外来における患者一部負担割合の引き下げ」「診療報酬の大幅な引き上げ」を掲げていると強調された。

道民協議会の活動に少しでも役に立てばと、激務の中、ご講演いただいた中川俊男先生にお礼を申し上げるとともに、先頭に立って、進むべき方向を示唆していただきたいとお願いする次第である。